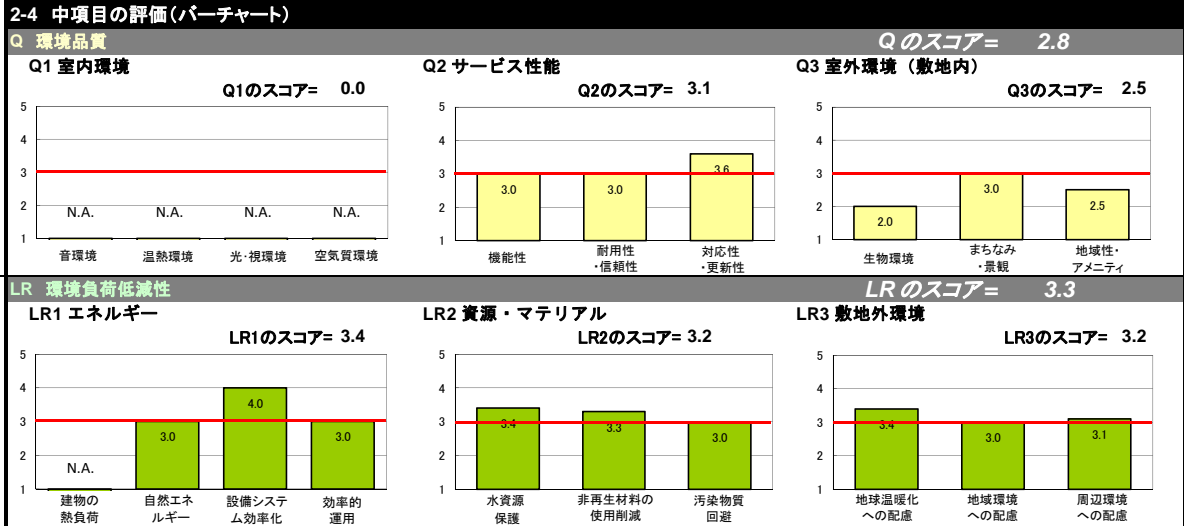
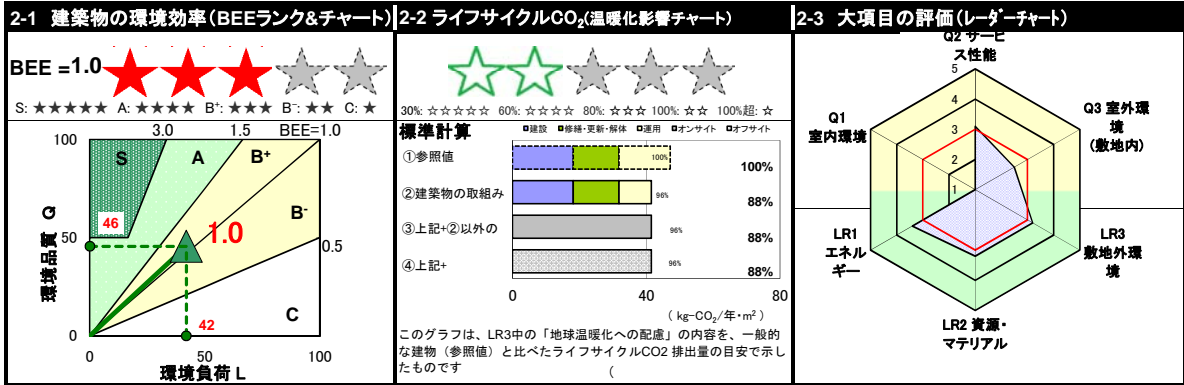


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	嶺内山 弥富物流施設	階数	地上2F
建設地	愛知県 弥富市 三福二丁目 13番,14	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	18 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年8月18日
敷地面積	5,483.76 m <sup>2</sup>	作成者	井藤 昌夫
建築面積	2,648.86 m <sup>2</sup>	確認日	2014年8月19日
延床面積	2,772.68 m <sup>2</sup>	確認者	中村 俊裕



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) <b>20.0 %</b>
<b>3.4</b>	<b>2.0</b>	
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料> なし
<b>3.2</b>	<b>1.0</b>	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
3 タニコヒ等								
4 レンジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			3.0
1 広さ・収納性						3.0		
2 高度情報通信設備対応						3.0		
3 バリアフリー計画		●						
1.2 心理性・快適性				3.0	0.50			
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33			
3 内装計画				3.0	0.33			
1.3 維持管理				3.0	0.50			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				3.0	0.31			3.0
1 耐震性				3.0	0.48			
2 免震・制振性能				3.0	0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			ガルバニウム鋼板を使用 プラスターボード仕上げ	3.0	0.23			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				4.0	0.09			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15			
				3.0	0.23			

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1	階高のゆとり			5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	空調配管の更新性			3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.5
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.4
1 建物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				4.0	0.43			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価				3.9				
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.2
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1	節水			4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			3.3
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	4.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1	消火剤			-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50			
3	冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮			①	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			3.0
2.1	大気汚染防止			5.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●		4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1	騒音	●		3.0	1.00			
2	振動	●		-	-			
3	悪臭			-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1	風害の抑制			3.0	0.70			
2	砂塵の抑制			-	-			
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			4.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

篠内山 弥富物流施設

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.5\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>敷地周辺環境と、流通業務施設(倉庫)の用途上必要な機能を満足させた融合</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>評価対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>階高のゆとり、空間の形状・自由さの確保</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>庇、屋根付き開放部分の空間を取り入れ日影部分形成に努めた</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省エネ措置の基準を満たしている</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省水型機器の使用</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>十分な駐車及び車両転回スペースを確保</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>